

# 学生のVERSANT平均スコアは49点！ 金融系は45点、製造業・IT系は43点！ 「本当に話せる英語力」を証明するVERSANT



2018年10月26日  
株式会社 日本経済新聞社

日本経済新聞社は26日、全国一斉英語テスト「第1回 VERSANT英語スピーキング・チャレンジ」の10月23日までの中間報告（4回目・速報値）をまとめました。受験者の平均スコアは45点と、日本人平均の38点を大幅に上回る高いスコアを維持しています。

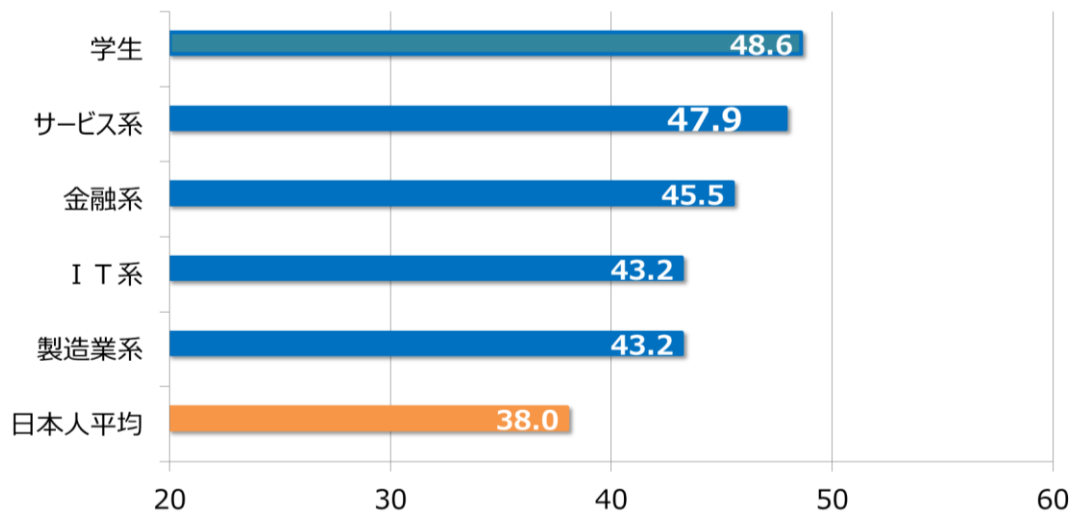
業種・職種別でみると、学生（主に大学生）が49点と最も高くなっています。日本経済新聞社は今年6月、株式会社ディスコが開催する留学生らを対象にした就職活動イベント「東京サマーキャリアフォーラム」でVERSANTのモニター試験を実施しました。海外大学留学生らに数多く受験して頂き、その際の平均スコアは54点と、日本人平均を16点上回りました。当然TOEICは900点を超える学生が非常に多いのですが、VERSANTではネイティブを相手に議論できる実力が本当にあるかどうかを示すことができます。

受験者数が最も多い金融系の総合スコア平均は45点で、スピーキング・チャレンジの平均と同じになりました。また、サービス系（医療や運輸など）は英語学校関係者の方にも受験されており、平均スコアが48点と高くなっています。製造業の方にも数多く参加して頂き、平均スコアは43点となっています。

## 中間結果のポイント

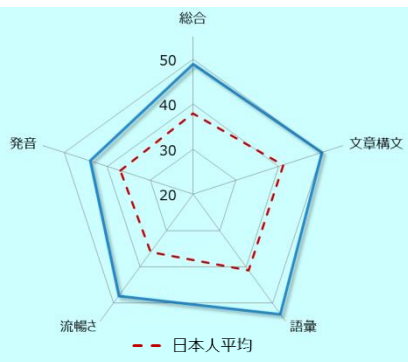
- ・受験者の**VERSANTスコア平均は45.5点**  
⇒日本人平均（38点）を7点も上回る高水準を維持
- ・**業種によってスコアに差が出ている**  
⇒学生（主に大学生）の平均スコアがトップの49点  
⇒サービス系は48点  
⇒受験者が最も多い金融系は45点

## 業種・職種別のVERSANT平均スコア

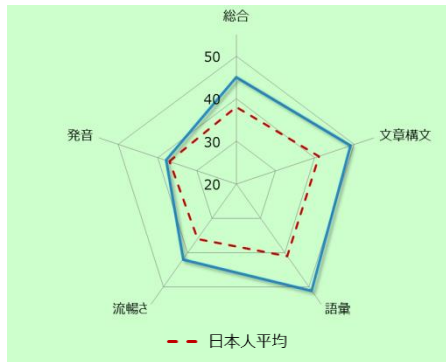


## 業種・職種別VERSANTスコア（項目別）

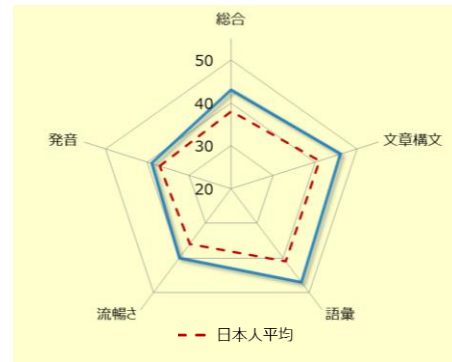
### 学生



### 金融系



### 製造業



今回のスピーキング・チャレンジでは各業種・職種ともに日本人平均を大幅に上回っています。学生はスピーキング力を示す「流暢さ」と「発音」がいずれも日本人平均を10点以上も上回っています。金融系の方はTOEICの高得点者も多いからか、リスニング力を示す「語彙」が51点と、得意とされています。一方製造業の受験者は「語彙」が比較的苦手ようです。

## 「第1回 VERSANT 英語スピーキング・チャレンジ」締め切り迫る！

受験期限を11月11日（日）まで延長！まだチャレンジしていない方はお急ぎください。

申込期限も10月31日（水）まで延長しました。

<https://www.versant.jp/campaign/201807/>